

令和6年度 大崎順彦賞（新設）募集要項

公益社団法人 日本地震工学会

1. 賞の概要

地震工学の分野における活性化を目的として、挑戦的な研究成果を挙げている若手研究者に賞を授与し、さらなる研究の発展を促進するため、大崎順彦賞を設けました。本賞は、大崎総合研究所の創設者である故・大崎順彦先生^{*1}（東京大学名誉教授）の研究ポリシー・研究姿勢^{*2}を受け継ぎ、大崎総合研究所^{*3}からの寄付により創設されました。

2. 賞の対象

地震工学に主軸を置き、地震工学に新しい視点や考え方を取り入れたり、周辺領域の研究成果をうまく取込んで課題解決を行ったりして、挑戦的で地震工学の裾野を広げるような研究開発を継続的に実施し、優れた成果を上げた個人を対象とします。

3. 応募資格

本賞の応募資格は以下の通りです。

- ・大学や大学院、研究機関、民間企業等に勤務する研究者（大学院生を含む）や実務者の個人を対象とします。
- ・受賞年（2025年）の4月1日で45歳以下であること。
- ・応募時点かつ表彰時点で当学会の会員（学生会員を含む）であること。
- ・日本国籍を有する者（海外在住の日本国籍を有する研究者を含む）、または外国人であって我が国で5年以上に渡り研究者として大学等研究機関、企業の研究所等に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定している者であること。

4. 賞金、副賞

受賞者には賞金1件当たり100万円および副賞を授与します。各年最大で2件を選出します（選考の結果、該当者なしとする場合もあります）。

5. 応募方法

下記の書類等をセットとして、締め切りまでに9.の提出先までメールにて提出してください。

(1) 推薦書、概要説明書

- ・所定の応募フォームをホームページよりダウンロードして必要事項を記入の上、PDFファイルにして送ってください。書類を受理した際には、応募者にそ

の旨メールで連絡いたします。

- ・推薦書に記載する推薦者は、博士号取得者もしくはそれに相当する人としません。自薦、他薦は問いません。
- ・本賞は2.に示した研究開発の成果を評価する賞であるため、概要説明書には、どのような新たな視点や考え方、分野横断的な取組みを行って問題解決に当たったかをこれまでの継続的な研究過程に沿って示してください。また、研究開発を更に発展させるための将来的なビジョンを示すことが重要ですので、応募に当たってはその点を十分にアピールしてください。

(2) 業績に関係した参考資料

- ・応募概要書に記載した業績リストにある論文、報告書、説明書、書籍等各1部をメールで提出してください。メールで送ることのできない印刷物（製本済みの報告書、書籍等）がある場合は、応募のメールに別送品があることを明記の上、郵送で提出期限内に届くように送ってください。原則として、お送り頂いた参考論文、参考資料等は返却しません。

6. 選考方法

日本地震工学会内の選考委員会で選考を行います。まず、応募申請書に基づいて1次選考を行います。1次選考通過者は、2次選考にて研究・開発に関するプレゼンテーションを行って頂き、その内容を評価して受賞者を決定します。

なお、選考に関しては、受賞者以外には特にご連絡いたしませんので、予めご了承ください。

7. 応募の締め切り

2024年11月29日（金曜日）12:00。これ以降は受け付けません。

8. スケジュール

応募・選考等のスケジュールを以下に示します。選考期間、受賞者の発表時期等は多少変更になる場合があります。

- ・2024年8月30日 応募開始
- ・2024年11月29日 募締め切り
- ・2024年12月初旬～2025年2月末 1次選考
- ・2024年3月初旬～3月末 2次選考
- ・2025年4月初旬 受賞者決定・公表
- ・2025年5月 社員総会にて表彰

9. 提出先・問い合わせ先

公益社団法人 日本地震工学会事務局

電話：03-5730-2831、電子メールアドレス：2office@general.jaee.gr.jp

※1 大崎順彦（1921～1999）：

東京大学名誉教授。日本の耐震工学者。建設省建築研究所第三研究部長・国際地震工学部長、東京大学工学部建築学科教授を歴任し、地盤工学、地震工学、耐震工学の分野において顕著な研究業績を残す。1982年、東京大学を定年退官、清水建設（株）副社長に就任、同時に（株）大崎総合研究所を設立。

※2（株）大崎総合研究所：

社会を支える特殊構造物の建設エンジニアリングに関わる地震動評価・構造解析・流体解析等の特殊解析技術の研究開発およびそれらの研究開発成果を活用したコンサルティング業務を手掛ける民間のシンクタンク。1982年設立。

※3 大崎先生の研究ポリシー・研究姿勢：

大崎順彦先生は、地震・地盤・構造物の三つの分野を総合し、三者を一体とした耐震理論の体系化と確立を研究人生の目標としておりました。また、その中で個々の狭い単独分野に閉じこもることなく、分野間のつながりを強く意識し、複数の分野にまたがる研究（例えば、地盤と構造物を組み合わせた不同沈下の問題、構造物と地震の組み合わせである震害の分析や設計用入力地震動の策定、地震と地盤の分野を組み合わせた地盤震動理論など）に挑戦し、独創的な多数の論文や本を執筆するとともに、多くの若い研究者を鼓舞し育成いたしました。その際には、データ・数理を大切にしつつ、当時の最先端のIT技術（コンピュータと数値解析技術）の活用を常に強く意識していました。